# 星座神話『ペルセウスの冒険』 修正版

キャスト

・マーヤ・・・♀

・しゅげんくん・・・♂or♀(声の人･･･一人)

・アルゴスの国王　アクリシオス・・・♂

・神・・・♂

・大神　ゼウス・・・♂

・アクリシオスの娘　ダナエ・・・♀

・勇者　ペルセウス・・・♂

・怪物　ゴルゴン三姉妹

　ステンノー・エウリュアレ・メデューサ・・・♀or♂×３

・カシオピアの一人娘　アンドロメダ・・・♀

・海魔　化けクジラ・・・♂

・ナレーション・・・♂or♀

（マーヤ出てくる）

マーヤ：こんにちは。私の名前はマーヤっていうの。この摩耶山に住んでいて、この星祭りを毎年楽しみにしているの。これから始まるお話は古代ギリシャの国アルゴスに生まれた勇者ペルセウスの神話だよ。おや、向こうからアルゴスの王様が歩いてきたよ。

（マーヤはける）

# 第一幕　ペルセウスの出生

（アクリシオス登場）

国王アクリシオス：私が王となってからもう長い。そろそろ跡継ぎがほしいところだ。神よ、わが娘ダナエに男子を授けたまえ。

神：よかろう。しかし残念なことに、お前はダナエの子によって国を追い出されるであろう。

国王：な、なんだってー！そんなころになるのなら、跡継ぎなど要らぬ。いっそのこと娘を閉じ込めてしまおう。

（アクリシオスはける＆手を縛られたダナエ出てくる）

ナレーション：王様は自分の娘であるダナエを窓がひとつあるだけの狭い部屋に閉じ込めてしまいました。それを見ていたのが大神ゼウスでした。

（ゼウス端に出てくる）

ゼウス：あの娘、なんとうつくしいのだ。ぜひ私の嫁にしたい。よし、光となってあの部屋に忍び込もう。

ナレーション：するとゼウスは体を光にして、ダナエの閉じ込められている部屋に入りました。やがて一人の男の子が生まれました。それがペルセウスでした。（ペルセウス登場・横からハイハイ）

（アクリシオス登場・端）

国王：なんということだ。これでは私の身が危ない。よし、ダナエもペルセウスもどこかへやってしまおう。

ナレーション：すると王様は娘のダナエとペルセウスを箱に入れて海に流してしまいました。（ペルセウス・ダナエ箱詰め）

ナレーション：箱はある島に流れ着き、二人はそこの漁師に助けられ、ペルセウスはすくすくと育ちました。（ペルセウス大きくなる）

（アクリシオス笑いながらはける）

（ペルセウス・ダナエもはける）

# 第二幕　ペルセウスの冒険

ナレーション：ある日大人になったペルセウスは、島の王様に怪物であるゴルゴン三姉妹を退治するように命じられました。（剣持ちペルセウス登場）

ペルセウス：ゴルゴン三姉妹を退治しろと言われたものの、どこにいるかもわからないし、どうやって倒せばいいかもわからない。どうすれば・・・。

マーヤ：わたしが教えてあげるわ。

（盾持ちマーヤ登場）

ペルセウス：あなたは？

マーヤ：私はマーヤ。ゴルゴン三姉妹を倒すにはまず、この山のどこかにいるというしゅげんくんというてんぐ族の男の子から翼の生えたサンダル、そしてかくれ帽子をもらわなければならないわ。翼の生えたサンダルを履けば、あなたは空を飛べる。そして被ると姿を消せる帽子は怪物退治に絶対必要よ。

ペルセウス：しゅげんくんはどこにいるのですか？

マーヤ：この道をまっすぐ行けば会えるはずよ。

ペルセウス：ありがとう。じゃあ行ってきます。

マーヤ：待って。ゴルゴン三姉妹を倒すのに必要な盾を渡すのを忘れていたわ。はい、どうぞ。

ペルセウス：きらきらしているね。

マーヤ：ゴルゴン三姉妹の目は直接見てしまうと石になってしまうの。だからその盾に写った姿を見るようにしてちょうだい。

ナレーション：盾をもらったペルセウスはお礼を言って、早速しゅげんくんに会いにいきました。（マーヤはける・ペルセウス歩き出す）

（しゅげんくん登場）

しゅげんくん：（もじもじ）

ペルセウス：君がてんぐ族の男の子のしゅげんくんかい？

しゅげんくん：（もじもじしながらうなずく）

ペルセウス：僕はペルセウス。ゴルゴン三姉妹を倒すために君からつばさの生えたサンダルとかくれ帽子をもらいたいんだ。

しゅげんくん：（もじもじしながらうなずく）

ペルセウス：もちろんタダでとは言わないよ。何かして欲しいこととかないかな。なんでも聞くよ。

しゅげんくん：今なんでもするって言ったよね？

ペルセウス：て、話せるんかーい！

しゅげんくん：じゃあ僕と遊んでよ。

ナレーション：ペルセウスはしゅげんくんと遊んであげました。

（あっち向いてホイをして遊ぶ）

しゅげんくん：楽しかったよ。じゃあこれをあげる。

ペルセウス：ありがとう。これでゴルゴン三姉妹を退治できるぞ！

しゅげんくん：いいことを教えてあげるよ。ゴルゴンは三人姉妹だけれど、その

うち二人は死なないんだ。だから唯一、倒すことができる末っ子のメデューサを狙って倒すようにした方がいいよ。

ナレーション：ペルセウスはしゅげんくんにさようならを言って、ゴルゴン三姉妹のいるという海岸までやってきました。（しゅげんくんはける・ペルセウス歩き出す）

ゴルゴン三姉妹は昼寝の途中のようです。

（暗幕に隠しながらゴルゴン三姉妹登場し、寝転がる）

ペルセウス：ラッキー！この間に首を頂くぜ。ところでどれがメデューサなんだ？一度呼びかけてみて起きそうになったのがメデューサだな。よーし、メデューサ！

メデューサ：じぇじぇじぇ？誰か呼んだけろ？

ペルセウス：やばい。起きちゃった。でもしょうがない。かくれ帽子を被って姿を消して、盾を見ながら後ろ向きに近づこう。

（コント：透明人間と怪物）

メデューサ：ぎゃあああああああ。

（ゴルゴン三姉妹はける・ペルセウスガッツポーズしてからはける）

# 第三幕　対決！化けクジラ！

ナレーション：メデューサを退治したペルセウスは空飛ぶサンダルを使って残り二人の怪物から逃げました。おや？逃げ帰る途中にきれいなお姫様がつかまっているようですよ。

（手を縛られたアンドロメダ登場）

アンドロメダ：誰か助けて。化けクジラに食べられてしまうわ。

（化けクジラ登場）

化けクジラ：これがこの世で一番美しいと噂のアンドロメダ姫か。早速食ってしまおう。がおー。

（剣＆写真持ちペルセウス端に登場）

ペルセウス：おっ。きれいな人だなあ。あの化けクジラを倒せば俺に惚れるんじゃね？！よし、行くぞ！

ナレーション：そういうと、ペルセウスは化けクジラの方へ向かっていきました。

化けクジラ：誰だ、お前は。

ペルセウス：私はペルセウス。ただの通りすがりの勇者さ。あれだけきれいな姫を食べてしまおうとは許せない。僕と勝負だ。（アンドロメダはける）

（殺陣）

（ペルセウス倒される）

ペルセウス：くっ・・・強い。ここまで強いとは・・・。

（マーヤ登場）

マーヤ：このままではペルセウスが負けてしまう。みんなの声をペルセウスに届けてあげて！いくよ。せーの、ペルセウス―（呼びかける）

ペルセウス：ううう・・・

マーヤ：まだ駄目みたい。もう一回いくよ。せーの、ペルセウス―（呼びかける）

ペルセウス：よし！みんなのおかげで立ち上がることができた、ありがとう。行くぞ！

ペルセウス＆化けクジラ：うおおおおおお。

（化けクジラ倒れる）

ペルセウス：よし、とどめにメデューサの目を見せて石にしてやる。（ペルセウス写真を出して見せる）

（化けクジラ固まる。）

ペルセウス：ふう。もう大丈夫ですよ。お姫様。

（アンドロメダ登場）

アンドロメダ：ありがとう。あなたは命の恩人です。結婚しましょう。

ナレーション：こうしてペルセウスはアンドロメダ姫を助け、結婚しました。ペルセウスはもといた島にたどり着き、アルゴスの国に帰ることにしました。するとアルゴスの国王は大変、驚いてしまいました。

（全員はける・アクリシオス登場）

国王アクリシオス：えぇー！あのペルセウスが帰ってくるのか！これは恐ろしいことだ。今のうちに逃げてしまおう。（アクリシオス逃げる）

（ペルセウス・アンドロメダ登場）

ナレーション：王を失ったアルゴスの民は勇者ペルセウスを新しい王に選びました。こうしてアルゴスの王様となったペルセウスはアンドロメダとともに仲良く暮らし、今も秋の夜空で寄り添っています。

めでたしめでたし。

（エンディング）